フォーラムニュース　Vol.16　2020 7/15

発行：フォーラム･子どもたちの未来のために実行委員会

http://www.f-kodomotachinomirai.com/

文責／大竹永介

【特別寄稿】コロナの時代の子どもたちへ

角野栄子

新型コロナウィルスの感染拡大は私たち大人だけでなく、むしろ子どもたちに大きな影響を与えるように思えます。突然の一斉休校、オンライン授業、といった問題ばかりでなく、「新しい生活様式」という名のもとに、大きな声でおしゃべりしたり、友達とじゃれあったりすることが制限されてしまう社会は子どもたちの人間形成にはたしてどんな結果をもたらすのでしょうか？　この私たちがこれまで経験したことのない時代を生きる子どもたちへのメッセージを児童文学作家の角野栄子さんに寄せていただきました。（編集部）

書くことが仕事なので、たいていは家で一人で仕事をしています。外出自粛と言われても、さほど苦にはならないでいます。それに、こんなに年寄りだし・・・先の見えないコロナ下の厳しい日常を過ごしている今の子どもたちに伝えることなんて私にあるかなあ・・・自信ないなあ・・・と思っていたら、ふと頭に「工夫」という言葉が浮かんできました。「工夫」なら私は得意です。何もない戦争中に鍛えられました。

今、問題になっているマスクなんて、８歳ごろから自分で作っていました。ガーゼのような薄い布さえあれば、針がなくたって、そこそこのものは作れます。下駄の鼻緒が切れたって、道の小石を使って、直したものです。本来、人はどうしたらもっと気持ちよく暮らせるかと工夫する力を持っているのです。「工夫」なんて、このなにもかもインスタントの時代に古くさい言葉に思えるけど、コロナ自粛の暮らしの中に引っ張り出して、働いてもらいましょう。

外に遊びに行けない、友達とも会えない、我慢ばっかり。この退屈をどうしてくれるのよ。「いやいやいや」「ダメダメダメ」と文句を言いたい気持ちはわかるけど、誰のせいにもできません。創意、工夫を持って、自分なりの気持ちのいい日常を作り出すのはあなたの力しかないのです。ああしてみようか、これではどうかと、心を動かしてみましょう。心が動かなければ、何にもかわりません。何にも生まれません。工夫し、何かを生み出す、この心の動きは、人に安心と力を与えてくれます。それは、自分で考え、自分で選択し、自分で決めることのできる、本当に自由な人を作っていくことにつながるでしょう。

【かどのえいこ：1935 年生まれ。早稲田大学卒。絵本作家、童話作家。代表作に「魔女の宅急便」「ズボン船長さんの話」「ラストラン」など。サンケイ児童出版文化賞、路傍の石文学賞、旺文社児童文学賞、野間児童文芸賞、小学館文学賞など受賞多数。2018 年には国際アンデルセン賞作家賞を受賞。】

～～～